



♡ほっこりサンタのプレゼント♡

小さなサンタさんからみんなに♡♡のプレゼント

小中学校にエアコン設置

2

津波避難タワーの設計

3

西伊豆中学校周辺を測量

3

一般質問

5～

12月13日、仁科認定こども園で、園児57名による「にこにこはっぴょうかい」が行われました。

議会だよりは、西伊豆町ホームページでも御覧になれます。

小中学校にエアコン

開催期間	12月4日から12月6日まで
審議した案件	町長提出議案 12件
可決した主な議案	自然環境と再生エネルギー発電事業との調和に関する条例の制定・ 一般会計補正予算（第7・8号）・国民健康保険特別会計補正予算（第2号）・ 水道事業会計補正予算（第1号）・温泉事業会計補正予算（第1号）など

こんなことが、決まりました。

自然環境と再生エネルギー 発電事業との調和に関する 条例の制定（全員賛成）

景観や自然環境を保持することを目的に指定された「抑制区域」では、原則として太陽光発電及び風力発電の事業を行うことはできません。

ただし、一定の要件に当てはまり、町長の同意が得られれば、可能となります。

公共施設等総合管理基金 条例の制定（全員賛成）

公共施設の更新整備・統廃合や長寿命のための経費に充てるための基金で、従来あった「スポーツ施設整備基金」・「公営住宅基金」・「田子中学

校跡地施設整備基金」・「黄金崎公園整備基金」・「公共施設解体基金」を廃止し、一本化するものです。

幼児教育アドバイザー共 同設置規約の制定 （全員賛成）

賀茂地区1市5町の教育委員会で、園児や児童に関するサポートをする「賀茂地区幼児教育アドバイザー」を下田総合庁舎内に置くものです。

西伊豆町立学校設置条例 の一部改正（全員賛成）

来年度「賀茂幼稚園」を廃止し、伊豆海認定こども園に移行するための条文改正です。

一般会計補正予算 （第7号）（全員賛成）

小中学校施設修繕費 （空調設備整備工事）

問 賀茂小学校・田子小学校はエアコン設置がそれぞれ6機だが、予算額は賀茂小学校のほうが大きい。

答 受電施設改修費の差で、田子小学校はトランス交換で対応できますが、賀茂小学校は施設改修が必要になります。

問 文部科学省の「臨時特例交付金」を受けての事業となる。

全国的に工事量が増えることから機材の調達の遅れなどにより工期が延びる懸念があるが。

ン設置

答 国からメーカーに増産の指示が出ていると聞いていますが、各自治体が一斉に整備を始めますので、早く発注ができるようにします。

国民健康保険特別会計補正予算（第2号） （全員賛成）

一般被保険者療養費の補装具の購入、針灸・マッサージなどの利用件数の増加・保険税の還付金の増額で、230万円を追加し総額12億8100万円とするものです。

水道事業会計補正予算（第1号）（全員賛成）

人件費、減価償却費など、589万9000円を増額するものです。

温泉事業会計補正予算（第1号）（全員賛成）

収入は、新規加入による温泉使用料と加入金で1975万円の増額。支出は、人件費などの減、減価償却費・消費税の増により、111万2000円を減額するものです。

国の臨時特例交付金を使い、来年6月の完成を目指し、小中学校の「普通教室」にエアコンを設置する予定です。

内訳は	仁科小学校	8機	
	田子小学校	6機	
	賀茂小学校	6機	
	賀茂中学校	7機	です

西伊豆町職員の給与に関する条例の一部改正 （賛成9：反対1）

人事院勧告に基づき、西伊豆町職員の給料表（単純率で0.16%増）・宿日直手当（200円増）の改正を、4月1日に遡り施行するものです。

勤勉手当は、0.05か月分の増額を12月1日より適用するものです。

反対 給与改正は理解できるが、日々忙しい職員を宿直させる業務制度に賛同できないので、宿日直手当が盛り込まれた本条例の改正には反対。

賛成 人事院勧告に基づく条例改正の内容で問題ない。

宿日直業務は月に数日程度で、日々の業務に支障をきたすとは考えられないので、改正案に賛成。

一般会計補正予算（第8号） （賛成9：反対1）

人事院勧告に基づく職員人件費の増額などです。

第3回臨時会 平成30年11月15日

一般会計補正予算（第6号） （賛成9：反対1）

防災対策費

津波避難施設用地購入費

問 公有財産購入費450万円は。

答 仁科浜地区に津波避難タワーを建設するためです。

設計・地質調査業務費

問 業務委託費900万円は。

答 津波避難タワーの設計・地質調査です。

教育費

文教施設等整備測量業務費

問 現在の仁科小・西伊豆中学校敷地内に新設の統合学校と園が納まるか疑問だ。測量業務の範囲は町道の外側を含めるのか。

答 通常の路線測量の場合は道路中心線から15メートルから20メートルの範囲で行われますので、周辺用地も含めたものとなります。

議案の議決結果

賛成…○ 反対…× 欠席…欠 退場…退

会議名	審議した議案と主な内容 (議案名はわかりやすく変更しています)	堤 豊	山本 洋志	山本 智之	芹澤 孝	高橋 敬治	加藤 勇	山田 厚司	西島 繁樹	堤 和夫	山本 榮	増山 勇	議決 結果
第3 回臨時 会	専決処分の承認(30年度 一般会計補正予算(第5号)) [200万円を増額するもの]	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	30年度 一般会計補正予算(第6号) [3186万円を増額するもの]	○	○	○	○	—	○	×	○	○	○	○	可決
12 月 定 例 会	自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例の制定	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	公共施設等総合管理基金条例の制定	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	職員の公益的法人等への派遣等に関する条例の制定	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町幼児教育アドバイザー共同設置規約の制定	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	町立学校設置条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	賀茂地域の広域連携に係る連携協約の一部を変更する協約	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	30年度 一般会計補正予算(第7号) [1億34万7000円を増額するもの]	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	30年度 国民健康保険特別会計補正予算(第2号) [230万円を増額するもの]	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	30年度 水道事業会計補正予算(第1号) [支出を589万9000円を増額するもの]	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
	30年度 温泉事業会計補正予算(第1号) [収入を1975万円を増額し、支出を111万2000円を減額するもの]	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	可決
職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	—	○	×	○	○	○	○	可決	
30年度 一般会計補正予算(第8号) [150万8000円を増額するもの]	○	○	○	○	—	○	×	○	○	○	○	可決	

議長(高橋敬治)は採決に加わりません。

幼稚園統合の理由は

(町長) 落石の危険や高台避難を優先



加藤 勇 議員

質問 31年4月1日から賀茂幼稚園と伊豆海認定こども園が統合し、「伊豆海認定こども園」としてスタートするが、理由・メリットは。

町長 賀茂幼稚園は落石の危険や津波浸水区域内にあり、保護者や地域から高台移転が要望されていました。

伊豆海認定こども園の方が、落石や高台避難の面で安全性が高いと判断しました。

質問 2024年には伊豆海認定こども園と仁科認定こども園が統合し「統合認定こども園」としてスタートする計画だが、それまで統合を伸ばせないか。

町長 少子化により1クラス4名から5名で園生活をしており、去年は3名でした。

子供の成長にはある程度の人数の中で園生活をさせることが必要と考えます。

先行的に伊豆海認定こども園に統合することで、保護者の理解も得られています。

質問 統合園の園名に「愛称」を付けることは出来ないか。

町長 2024年の統合までには、名称のソフト面を検討したいと考えています。

質問 津波避難地が哆胡神社の境内だが、避難路の安全対策は。

町長 地区要望もあり検討したいです。

質問 賀茂幼稚園の利用は。

町長 関係者に伺っていますが、希望がありません。

質問 安易に解体など考えずサテライトオフィスなどとして活用できないか。

町長 議論はしています。

通学路の安全対策

地域で考えてほしい

質問 通学路沿いにあるブロック塀は、子供たちの安全のために早急な対策が必要ではないか。

町長 ブロック塀だけでなく、建物の外壁や看板・エアコンの室外機など、危険と思われるものがあります。

各地区で防災町歩きを実施しているので、地域全体の危険箇所や問題点を洗いだし、まずは地域で考えていただきたいです。



友達が増えて楽しいな



山本 洋志 議員

町長の政治ビジョンは

(町長) ベストマッチに対応

質問 私は、町が観光開発を中心に若者が働ける仕事場作りをし、税金をあげ、豊かな町づくりをすべきと訴えて来たが、建設的な答弁とは程遠いものだった。

町の現状と町長の政治ビジョンは。

町長 現状を把握しベストマッチで行っています。

未来を想像し誰もが住みつけられる町づくりを行っています。

議員の提案とはおり合わず実行できないこともあるが、駐車場不足問題や黄金崎公園の植栽と桜の植樹は行っております。

旧洋らん跡地について

レンタル会社に貸したい

質問 11月に全員協議会で調査会社の現場説明を受けた。

最大25m盛土で地滑りの危険が高く、建物の建設はおろか避難所としても危険であるとの結論でした。

利用できない土地を買っ

たわけである。土地売買契約の特約事項もなく町が損失を被る結果となったが。

町長 去年の全員協議会で、だめの土地だと言いました。

だからレンタル会社へ無償でも借りてもらいたいとお願いしています。

小中学校の統合について

新校舎を建設したい

質問 2045年の町の人口は2852人で、今の3分の1に激減すると推計されている。

統合は教育上必要だが、将来、松崎町との統合も考

えられる中で30億円強の資金をかける校舎の新設は中止すべきではないか。

町長 教育の面だけではなく、津波浸水区域にある仁科地区の避難地として考えており、ぜひ建設したいです。

反対するなら避難タワー建設も反対すべきです。

質問 学校建設と避難タワーは性格が違う。現校舎を使い、給食費無料化や他の面で住民サービスをすべきだ。

町長 すでに高校生の通学費補助や来年度から1年間介護保険を使わない方へ1万円の給付をします。



まだ充分に使える校舎

来年度の重要施策は

(町長) 斎場建設があります



増山 勇 議員

質問 来年度の重要施策は。

町長 一つは斎場建設です。

今年度中には斎場建設準備委員会から建設場所の候補地が示される見込みです。

質問 30年度の施政方針の中で「国や県の動向には関係なく、何をすることが町民の幸せにつながり、町が活気づくかを検討することが一番重要である。」と述べているが、あてはまる事業は。

町長 今までは、一度走りだしたら止まらないのが常でしたが、津波防災ステーションの中央監視システムの中止や一次産業（農林水産業者）の産地直売所の開設に向け準備を進めています。

また、町が必要と感じる空き家調査を、集落支援員の制度を活用して進めるなどです。

質問 これまで何度も提案してきた住宅リフォーム制度を新設する考えは。

町長 商工会からも要望を受けていますので、来年度実施に向け話し合いを始めて

いきます。

指定管理の今後は

評価委員会の評価後に

質問 指定管理の契約があと1年半で終わるが今後の方針は。

町長 指定管理者評価委員会での評価を受けて、検討していきます。

質問 当初から12施設一括指定管理をしたのは無理があると指摘してきた。

特に公衆温泉の苦情などの対応は。

町長 指定管理者に町のイメージダウンにならないように指導しています。

避難路案内看板を

国の統一看板を設置

質問 避難路の整備が進んでいるが、案内看板の設置が遅れているのでは。

町長 今後、町民防災ブロック会議で町歩きなどを行い検討していただき、国が示している統一看板を来年度以降、設置していきます。



指定管理の見直しを



堤 豊 議員

少子高齢化時代の行政の対応は

(町長) 廃止すべきものは廃止

質問 少子高齢化時代を迎え、町の人口は、大幅に減少していくと予想されている。

今後、老朽化したインフラ、公共施設が大幅に増加し、一人暮らしの高齢者も増加する。

医療、福祉、インフラ管理など住民サービスの多くは地方自治体、市町が支えている現状です。

人口減少、行政の縮小により、サービスを提供し続けることは、厳しくなると考えるが、町の対応は。

町長 懸念の通りになることが予想されますので、廃止すべきものは廃止していきます。

賀茂地域では広域連携会議などで公共施設や公共サービスの協同化などを検討しています。

質問 施政方針に「町の20年後、30年後を見越し、実態に即した人口や産業形態を想像し」とあるが、具体的に何を想像しているのか。

町長 その時のベストマッチ

を実施し、住んで良かったといわれる町づくりをしていきます。

そのためにも、様々な施策の種まきをしていきます。

インバウンド観光客の誘致

観光・商工業者と連携支援

質問 インバウンド観光客の誘致を成長戦略の柱と位置づけ、県内の多くの市町が獲得に注力している。

当町でも環境整備などに力を入れる取組は。

町長 観光・商工業者と連携支援することが必要です。

外国人向けのパンフレット作成も検討しています。

また、31年度事業として、飲食店の和式トイレを洋式トイレへの改修補助事業も検討しています。

質問 地域産業の活力を維持・拡大するためにも、インバウンド観光客増加、やる気のある観光・商工業者を行政が強く支援していく必要があるが。

町長 色々なメニューの多言語表記などの環境をリニューアルしていくことを検討します。



医療・福祉の住民サービス

スズメバチの巣の駆除費補助は

(町長) 考えていません



芹澤 孝 議員

質問 スズメバチの巣の駆除費を補助する考えは。

町長 現在は考えていません。

質問 スズメバチの被害が最も懸念されるのは子供たちだが、通学路・学校周辺の個人の家などに巣が出来た場合、所有者が秋まで待てば死んでしまうと、費用を惜しんで駆除しない場合は。

町長 それはモラルの問題で、本人が一番危険ですが通学路付近で子供たちが危ない場合でも、出来るだけ個人でやっていただきたいです。

福祉避難所の対象者数は

ハッキリ把握していない

質問 福祉避難所へ避難となる対象者は概略何人か。

健康福祉課長 西伊豆町避難行動要支援者369名のほか、妊産婦、乳幼児なども対象となるのでハッキリとは把握していません。

質問 現在協定を結んでいるのは2福祉施設で一カ所は津波浸水区域となっている

が福祉施設ではどこに、どのようなスペースに、何人収容可能なのか。

健康福祉課長 ヒューマンヴィラ伊豆ではデイサービスルームに収容します。

広さが520㎡なので1人あたり3㎡として173人収容可能と考えています。

不足分はホテルのほか、旅館などのバリアフリー施設を探すこととなります。

質問 福祉避難所の物資の備蓄は。

防災課長 福祉施設と協議して簡易ベッド20基を購入しました。

今後は赤い羽根共同募金により、非常食、ガスコンロ、ストーブ、水タンクを購入予定です。

その他の備品も福祉施設と協議して備蓄を進めていきたいです。

福祉避難所とは

支援が必要な高齢者、障害者、妊産婦など配慮が必要な避難者を受け入れる避難所。

町は2福祉施設（ヒューマンヴィラ伊豆・太陽の里）と協定を結んでいます。



通学路の安全は保てるか？



山田厚司 議員

住宅リフォーム補助は

(町長) 実施に向け商工会と検討

質問 移住定住、地域振興などを目的に、多くの自治体でリフォーム補助がある。様々な型のリフォーム補助を検討、導入しては。

町長 実施する方向で、商工会と検討しています。

質問 住宅リフォームを木造住宅耐震補強改修と同時に行った場合の補助は。

町長 耐震補強改修は、県の補助なども多くあります。住宅リフォームとは切り離して考えています。

質問 三世帯同居の補助は町内の高齢者世帯の状況から、対象となりえる事例が多いのでは。

町長 対象者数は把握していません。

三世帯同居に限らずリフォーム補助を考え、補助率などは商工会と検討していきたいです。

質問 空き家バンクに関連したリフォームなど移住定住促進型は、集落支援員の調査を分析検討してからになるのか。

町長 移住定住促進型リフォームは、定住しなかった場合の問題もあり、現在住んでいる方を優先していきたいです。

農地の活性化は

農地所有は難しい

質問 農地の活性化、耕作放棄地対策として注目される「農地付き空き家制度」の導入は。

町長 町内の空き家を調査中で、可能物件は空き家バンクに登録します。畑などを希望する方がいる場合、農

業委員会に情報を提供したいですが、農地所有となると農家要件などの縛りで、難しいです。

質問 有効といわれる「市民農園」への取り組みは。

町長 農業委員会を通じて「農地集積バンク制度」で2件の貸し出し実績があり、あえて「市民農園」は考えていません。

質問 農地法上での農業者の条件の一つである「下限の面積20アール」を小さくして、活性化を図っては。

町長 農地を守る観点で難しく変更はしません。



リフォーム補助で地域に活力!!

避難看板などの多言語化は

(町長) 来年度から英語併記に



西島繁樹 議員

質問 「地域防災計画」に観光旅行者に対する避難場所・避難経路などの計画は定められているか。

町長 定めています。

質問 外国人観光客にも分かりやすい避難看板などの多言語化は。

町長 国の通知「災害種別図記号による避難場所表示の標準化の取組について」により、来年度から看板を英語併記に変更します。

質問 通訳ボランティアは。

町長 町が雇用しているCIRの活用を検討します。

質問 災害時における旅館組合・観光協会との協定は。

町長 平成24年5月30日に堂ヶ島温泉旅館組合と「災害時避難所施設使用に関する協定」を締結しています。

ペットの避難対策は

マニュアル作成中

質問 南海トラフ地震が発生した場合、犬や猫が避難してくる。登録数と対策は。

町長 犬の登録数は367匹、飼い主は311名です。猫は把握していません。平成30年3月の静岡県マニュアルに基づいて作成中です。

ひきこもり対策は

社協にて対応

質問 “ひきこもり”は若者特有の一時的な現象だと考えられてき、現在では長期・高齢化が進んでおり、40歳以上の人が29%を越え、平均ひきこもり期間は「19年以上」に及んでいる。町の現状・対策・支援は。

町長 県社協から西伊豆町社協が受託している生活困窮者自立相談支援事業は9名の利用があり、内1名はひきこもりが要因で利用されています。

支援は相談員を配置し、就労支援（ハローワーク同行など）、家計に関するアドバイスなどを行い、みずから家計管理ができるようにしています。

CIR（国際交流員）とは
西伊豆町では、主に通訳や翻訳を行っている。



外国人にも判りやすく！

議会の動き

第1、第2常任委員会視察研修報告

第1・第2常任委員会は、合同で11月5日から7日の日程で群馬県みなかみ町、下仁田町、埼玉県和光市、山梨県笛吹市を視察しました。

地域とともに成長する森の学び舎

和光市

学区変更による児童数の変移で新設された小学校の木材を活かした取組みを視察しました。

学校複合化により地域と連携し活性化を推進

学校と図書館分館、児童館、保育クラブの複合施設を整備。また緑あふれる散策路や傾斜した屋根で地域の景観に配慮し、交流・協同が図れるように設計されています。

多目的に使用する3層吹き抜け「森のホール」

学校中央には壁面に埼玉県産のすぎを使用した「森のホール」と命名された場所があり、交流の場所、階段を観客席に発表の場所にと多目的に活用し、心地よい場所づくりを目指しています。

基本的な方針を盛り込んだ報告書作成

市の建設検討委員会、全議員による特別委員会を経て、また各種の説明会の開催やパブリックコメントを実施し意見を反映し、理念、方針を盛り込んだ報告書をまとめています。

基本理念、方針が確固たるものがあり、また地域とともに成長する施設と位置付け、交流・協同を図ることなど参考にしたいです。



心地よい場所を目指して

つながりとICTで見守りを

笛吹市



外出時の緊急事態の身元確認へ

高齢者人口や認知症高齢者が増加する中、ICTを活用した見守り事業を視察しました。

見守りステッカー利用支援事業

健康上に不安のある方の外出時における緊急事態等への備えとして、個人情報の代わりに付与するID番号（個人識番号）とフリーダイヤルが記載されたステッカーを配布します。

利用者はステッカーを衣類、持ち物などに貼り付け、行方不明などになった場合に、発見者から登録連絡先（家族等）に、直接連絡されま

見守りあいアプリプロジェクト事業

スマートフォン等に「みまもりあいアプリ」を登録していただき、見守りステッカー利用者の検索依頼に協力を行うもので、早期発見、終日対応と負担軽減につなげています。

ICTを活用しつつしかも低コストで個人情報も守り、住民の互助、協同による見守りあう仕組みは参考になりました。

第1常任委員長 山田 厚司

稼ぐための観光地づくり

みなかみ町

人口1万9千人、年間の観光交流客数376万人、第3次産業従事者が56%を占める観光の町で、東京からは新幹線で66分の地にあります。

町内には18地区の温泉地があり、雪と桜、谷川岳一ノ倉沢、匠の里、月夜野ビードロパーク、通年可能な果物狩りなどの観光地を持っています。



谷川岳一ノ倉沢

町は、人口減少による地域消費減対策として、観光振興により交流人口を増やし地域消費の増額を目指しました。

観光客のニーズが多様化し「地域との交流・インバウンド対策・今だけ・自分だけの観光」に対応が必要と捉え、町内の多様な関係者（宿泊施設・飲食店・アウトドア・行政など）による委員会で、5年間のマーケティング計画を決定しました。

観光の戦略を決め目標を作り、ターゲットを関東の20代から30代の女性に絞り、マーケティング・マネジメント・地域資源活用を進めています。

情報発信では、ブランドづくり・メッセージ・ポスター・パンフレット・ロゴマーク・キャッチコピーなどの作成を行い、季節ごとの動画配信、ホームページの個別配信や情報サイトの活用も行っています。

観光客確保には、多くの関係者が参加し、しっかりとした戦略と方針を決め「誰もがみんなでおもてなし」の心で、地域への誇りと愛着を醸成する観光地づくりの必要性を研修しました。

下仁田町

人口7千4百人、こんにゃくやねぎの生産・林業・建設業で産業の90%を占めている町です。

産業構造分析の結果、今後は人口減少や高齢化が進み、現状の産業が衰退してしまう状況にあります。

平地が少なく企業誘致は望めない地域なので、観光振興を軸に「環境保全を優先する観光地づくり」「しもにたブランドの推進、国際観光地の実現」を目指しています。

観光推進には、行政と観光協会の役割の違いを明確化して連携を図ることを進めています。

例：移住定住の窓口業務を観光協会に委託することで、年中無休で対応しています。

行政の行っている仕事でも民間ができる仕事（JTBなどとの打ち合わせ・観光パンフレットづくりなど）を任せることや、観光に携わる人材育成の必要性を研修しました。

第2常任委員長 加藤 勇



観光地づくり研修



「道の駅しもにた」の賑わい

賀茂郡町議会議員研修会報告（10月19日 河津町）

演題「地域の魅力を創る取り組みシティプロモーションという発想」

東海大学文学部広報メディア学科教授 河井孝仁 氏

シティプロモーションの背景

- ・近い将来、地方消滅「担い手」の激減、域外住民の参画。

共創参加プロモーションの目的

- ・ブランド、自分の町の差別化、他とどう違うのか。
その素晴らしさをどうして伝えるか。
- ・地域（まち）の発展に真剣になる力を増やす。
- ・熱を持った人達が土台となり地域の稼ぐ力の実現にとりくむ。
- ・地域（まち）の魅力を語れる人
- ・この町でこんな暮らしができる。
- ・町民にアイデア提案してもらう。

自分のブランドを信頼させる着地点整備

- ・信頼の場で理解させる（行政提供する場）

- ・共感の場で納得させる（ソーシャル提供する場）
- ・ブランドを認知と関心を惹き詳しい情報を提供する場所を整え地域への推奨、参加、感謝を促し各時点で情報を発信させる（メディア活動）

広報編集委員 山本 洋志



西伊豆町・富士見町議会議員交流会報告（10月23日、24日）

メガソーラー

太陽光発電のあり方についての考え方を受講。行政や議会、地域住民の考え方を知る機会が得られました。

カゴメ富士見町工場見学

敷地面積11万4401㎡（東京ドーム2.5個分）と広大な土地であり、操業開始は1968年。

清潔で機械化された工場ですが雇用も240人あります。

真澄富士見蔵見学

全国ブランドである工場見学を実施。「大吟醸」「夢殿」など精米歩合40%の高級酒を試飲しました。

米は信州が誇る「美山錦」「ひとごち」、兵庫県加東市「山田錦」を原料としており、手仕事での作業が多いとのことでした。

おたっしゃ広場（介護予防施設）

高齢者が気軽に運動したり、同世代の仲間と交流することで社会や人とつながり、自分らしい生活が続けられることを支援する施設でした。

そのほか特別養護老人ホーム恋月荘も見学しました。

広報編集委員 堤 豊



町村議会広報研修会報告（10月9日 東京都）

千代田区の「シエーンバッハ・サポー」で行われ、委員5名と議長が参加しました

「読み手に伝わる文章の書き方」

朝日新聞メディアプロダクション校閲事業部長の前田安正氏。

「デザインの力で、もっと伝わる議会広報紙に」

(株) コンセントアートディレクターの筒井美希氏。

「最優秀賞及び優秀賞作に見る光彩を放つ編集力」

グラフィックデザイナーの長岡光弘氏、3氏による研修を受けました。

できるだけ多くの人に読んでもらいたいと意識し文章作成をする書き手側は、『読み手の存在を忘れ、自分の理解は通じると思い込んだ、独り善がりな表現になりがち』との指摘や、『人は目にするものを必ずしも読んでいるとは限らない』ことを意識し、『キーワードを選び強調

し、図・写真・グラフ・アイコン・イラスト・マップを使い、非言語の紙面構成も考えるよう指摘がありました。

読み手目線の文章の書き方とデザイン力で、「もっと伝わる広報紙」になることを学びました。

広報編集委員長 山本 智之



前号（第54号）の訂正とお詫び

前号の表記に下記の誤りがありました。

関係者及び関係団体の皆様に、ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。



(表紙)

つくるぞ「団子寿司」は「田子寿司」の誤りでした。

9月21日、田子小学校で3～6年生による田子っ子のあとにふるさとタイムが行われました。が抜けていました。

(3ページ)

介護保険特別会計補正予算(第1号)は(第2号)の誤りでした。

わが町の遊歩道 ⑦

町内にある10本の遊歩道をご紹介します。今回は「今山遊歩道」です。

今山遊歩道

大田子、安良里間の今山を歩く遊歩道です。どちらから登り始めてもなかなか登りごたえがありますが、この遊歩道は頑張った私たちにご褒美を用意してくれています。黄金崎越しの富士山、雄大な駿河湾の眺め、田子湾に浮かぶメガネツチヨ。一瞬にして疲れを吹き飛ばしてし



まう美しい眺めです。しかし、なんとと言っても秀逸なのがここならではの駿河湾とアロエのコラボです。アロエは12月から2月ごろまで濃いオレンジ色の花を咲かせ、青い海を背景によく映えます。二箇所の展望台では絶景を前に呼吸を整えましょう。この今山にはかつて茅場を確保するために田子と安良里の境を記した大きな石も置かれていて、楽しみがつかみません。安良里側は網屋崎から、大田子側は田子診療所横の町道から歩いて入ります。全長6km程の道のりです。

町内探訪 29

まつざわサロン (お茶会、雑談等)



宇久須浜

(左) 小林正敏さん
(右) 松沢正恵さん



宇久須浜で、常設サロン(立ち寄り型)を開設した小林さん、松沢さんにお話を伺いました。

質問 開設のきっかけは。

小林さん 接客業をやめたあと、従前からの老人会との関わりで福祉に関心があり、始めようと思いました。

質問 サロンの内容は。

小林さん 文化協会の友達が作品を展示してくれています。それを鑑賞しながら、お茶を飲み雑談するという形で、やれる範囲で無理しないようにしています。

質問 周囲の反響は。

小林さん 利用者は女性が主で、今年9月までに767人の来客者があり、また近所の介護施設利用者の散歩中の立ち寄り場所にもなっています。

質問 要望などは。

小林さん 介護する家族の負担減や、高齢者の防災面への配慮をお願いしたいです。

[取材 山本洋志・山田厚司]

平成31年1月15日 発行
編集 西伊豆町議会 広報編集委員会
発行 静岡県西伊豆町議会
住所 〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科401-1
TEL (0558) 52-1962 FAX (0558) 52-1906

【編集委員会より】

本号のご感想や議会に対するご意見・ご要望など、お気軽にお聞かせください。TEL: 52-1962